

教育委員会所管 平成20年度当初予算案の概要

1 予算の概要

	(千円)		(%)	
	平成20年度 当初 A	平成19年度 6月現計 B	増減額 A - B	伸び率 A / B
①教育庁予算	87,977,815	88,256,788	△278,973	99.7
②県全体(一般会計)	463,628,088	474,910,506	△11,282,418	97.6
構成比(①/②) (%)	19.0	18.6		

2 「教育・文化ふくい創造会議」提言の具体化

平成20年度当初予算においては、「教育・文化ふくい創造会議」の提言の具体化として、新たに小中連携教育を推進するための研究事業や、不登校対策としては、中学校において楽しい学級生活を支援するための学級復帰支援員の配置、さらには理科・数学教育関係では、「ふくいサイエンス寺子屋」やスーパーサイエンスフォーラムの開催事業など、新規事業8本、拡充事業4本を予算に反映させ、子どもたちの「総合的な学力」の向上のための事業を数多く盛り込みました。

上段：事業本数 (本)
下段：事業予算 (千円)

創造会議提言		新規	拡充	継続	計
第一次提言	総合的な学力の向上	3 38,869	2 82,857	2 3,291	7 125,017
	教員の指導力向上	1 1,600		2 1,000	3 2,600
	理科・数学教育の充実	4 19,746	1 19,000	2 25,000	7 63,746
第二次提言	笑顔プランの見直し		1 3,441,534		1 3,441,534
計		8 60,215	4 3,543,391	6 29,291	18 3,632,897

※個別事業名は下の一覧表を参照

3 主要事業一覧

No.	新規	事業名	創造会議提言	担当課
1		「教育・文化ふくい創造会議」事業		教育政策課
2	拡	元気福井っ子新笑顔プラン事業	笑顔プラン	義務教育課
3		学力向上プランの作成【ゼロ予算】	総合的な学力	義務教育課
4		高校生学力向上事業		高校教育課
5	新	小中連携教育推進事業	総合的な学力	義務教育課

No.	新規	事業名	創造会議提言	担当課
6		授業名人活用事業	指導力向上	学校教育振興課
7		教員の指導力の向上【ゼロ予算】	指導力向上	高校教育課・義務教育課
8	拡	わくわく理科授業応援事業	理科・数学教育	義務教育課
9	新	「ふくいサイエンス寺子屋」開催事業	理科・数学教育	義務教育課
10	新	スーパーサイエンスフォーラム開催事業	理科・数学教育	高校教育課
11	新	ふくい理数グランプリ(仮称)開催事業	理科・数学教育	高校教育課
12		「白川文字学」活用推進事業	総合的学力	生涯学習課・義務教育課
13		外国語指導助手配置事業		高校教育課・義務教育課
14		小学校英語大好きモデル事業		義務教育課
15	新	高校生英語ディベート力育成事業		高校教育課
16	新	楽しい学級生活支援事業	総合的学力	義務教育課
17	拡	スクールカウンセラー配置事業	総合的学力	義務教育課
18	新	スクールソーシャルワーカー配置事業	総合的学力	義務教育課
19	新	養護教諭サポート事業	指導力向上	スポーツ保健課
20	拡	親の子育て力向上推進事業	総合的学力	生涯学習課
21		発達障害児支援推進事業		高校教育課
22	新	食育ボランティア学校連携事業		スポーツ保健課
23		おいしいふくいの学校給食事業		スポーツ保健課
24		旧県立図書館活用事業(福井子ども歴史文化館整備)		生涯学習課
25		子どものための文化芸術促進事業		文化課
26		ふくい県民文化総合推進事業		文化課
27		フレンドリーアート推進事業		文化課
28		「ふくいふるさと祭り」開催事業		文化課
29	新	ふくいの祭り・民俗芸能群の創設【ゼロ予算】		文化課
30		一乗谷朝倉氏遺跡整備・活用推進事業		文化課
31	新	スポーツ大好きっ子育成事業		スポーツ保健課
32		県民スポーツ祭開催事業		スポーツ保健課
33	新	総合型地域スポーツクラブ活性化事業		スポーツ保健課
34		放課後子どもクラブ応援事業		義務教育課
35		職業自立推進支援事業		高校教育課
36		小・中学校耐震化促進事業		学校教育振興課
37		県立学校施設耐震化促進事業		学校教育振興課
38		ものづくり人材育成事業	理科・数学教育	高校教育課
39	新	食・くらしを支える専門的職業人育成事業	理科・数学教育	高校教育課
40		原子力・エネルギー教育推進支援事業	理科・数学教育	高校教育課
41		フレンドリーバス運行事業		生涯学習課
42	新	恐竜渓谷(ダイノソーバレー)構想推進事業		文化課
43		恐竜ブランド発信事業		文化課
44		ふくいの文化財再生・活用推進事業		文化課

平成20年度当初予算案

主 要 事 業

教 育 委 員 会

目 次

I 元気な社会	1
1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化	1
◇ 教育力の向上と文化の創造	1
◇ いつでも身近に福井の文化	5
◇ 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援	6
◇ 県立大学を中心とした大学連携リーグ	6
2 女性活躍社会	7
◇ 日本一の子育て応援システム	7
4 みんなの手によるあたたかな福祉	7
◇ つながりと自立の応援プロジェクト	7
5 日本一の安全・安心(治安回復から治安向上へ)	8
◇ 「福井治安向上プラン」の実行	8
◇ 災害・危機への「最初動」対策	8
II 元気な産業	9
6 地域を支え世界に広がる福井の産業	9
◇ 雇用の質の向上	9
III 元気な県土	9
8 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり	9
◇ モビリティ・マネジメント(交通手段の最適利用)の推進	9
IV 元気な県政	10
10 夢と誇りのふるさとづくり	10
◇ 「理想県」福井を全国に	10
◇ 「ふくいランドスケープ構想」	10

～ 事業内容の見方について ～

1. 事業名称の先頭に

「**新**」とあるのは、20年度当初予算の新規事業です。

「**拡**」とあるのは、20年度当初予算において事業内容の拡充を行った事業です。

2. 事業名称の後に

☆ とあるのは、「政策推進枠事業」に該当するものです。

「政策推進枠事業」…「福井新元気宣言」の実現のために、行財政構造改革の推進により生み出す財源で行う事業（ただし施設改修、公共事業関連等を除く。）

共 動

とあるのは、地域住民やボランティアなど県民の皆様と力を合わせ、共に活動する事業です。

電 源

とあるのは、本県等の提案により使途が弾力化した国の電源交付金・補助金を有効に活用して実施する事業です。

I 元気な社会

1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化

◇教育力の向上と文化の創造

「教育・文化ふくい創造会議」から、「『総合的な学力』の向上」、「教員の指導力向上策」、「理科・数学教育の充実」について第1次提言を受けました。また、「元気福井っ子笑顔プラン」の成果と課題を検証し、教育の質をさらに向上するよう中間報告が行われました。提言を受けた内容を速やかに実行します。

予算額
(単位：千円)

「教育・文化ふくい創造会議」事業（教育庁教育政策課） ☆ 5,998

19年度に引き続き、有識者で構成する「教育・文化ふくい創造会議」を開催し、20年度は、生涯学習・文化・スポーツなどの新たな振興方策について検討・立案を行います。

<総合的な学力の向上>

①元気福井っ子新笑顔プラン事業（教育庁学校教育振興課、義務教育課） ☆ 3,441,534

中学校1年を30人学級編制とするなど県独自の学級編制基準を定めた「笑顔プラン」を、創造会議の意見や保護者、学校の要望を踏まえ、教育の質がさらに向上するよう「新笑顔プラン」として見直し・拡充します。

学級編制基準の見直し

①小学校5年を36人以下学級編制に見直し

(小学校5年を小学校6年と同じ36人以下学級編制に拡充します)

②中学校2・3年を35人以下学級編制に見直し

(23年度まで段階的に導入します)

③学校裁量による柔軟な学級編制システムの導入

<23年度までの新笑顔プランの目標>

	学年	学級編制基準			学年	学級編制基準	
		19年度	23年度			19年度	23年度
小学校	1・2年	40人	40人	中学校	1年	30人	30人
	3・4年	40人	40人		2・3年	36人	32人
	5年	40人	36人				
	6年	36人	36人				

非常勤講師配置基準の見直し

①小学校1・2年の非常勤講師の配置基準を35人以上に拡充

(23年度まで配置基準を段階的に見直し31人以上とします)

配置教員数 教員458人、非常勤講師116人

学力向上プランの作成（教育庁義務教育課） ☆

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上プランを作成し、プランに基づく学習指導を県内小・中学校において実施します。

<p>高校生学力向上事業（教育庁高校教育課） ☆</p> <p>各高校が独自に企画する学習合宿や大学が開催するオープンキャンパスへの参加など、進学への準備を支援します。また、進学を希望する高校3年生を対象に、教科別試験指導や小論文指導など学力向上セミナーを開催します。</p>	17,718
<p>小中連携教育推進事業（教育庁義務教育課） ☆</p> <p>小学校での教科担任制の導入や義務教育9年間を見通した学習指導や生徒指導の計画作成など、小学校と中学校が連携した指導について研究します。</p> <p>指定数 8中学校（校区にある小・中学校をモデル校に指定）</p>	4,800
<p>授業名人活用事業（教育庁学校教育振興課） ☆</p> <p>分かりやすい授業で優れた実績をあげている教員（授業名人）を新たに15名委嘱し、指導方法を学べるよう公開授業を実施し、教員の教科指導力の向上を図ります。</p> <p>事業内容 30人程度の教員に授業名人を委嘱（19年度17人、20年度15人）</p>	1,000
<p>教員の指導力の向上（教育庁高校教育課、義務教育課）</p> <p>教員が各学校において公開授業の実施や自主的な研究会、サークル活動を行うことにより、指導力向上を図ります。併せて、児童・生徒が興味を持って学べるような教材製作の研究を進めるとともに、大手予備校への派遣研修の期間延長など教員研修の見直しを図ります。また、臨時任用講師についても研修期間を拡充し指導力向上を図ります。</p>	—
<p><理科・算数・数学教育の強化、拡充></p>	
<p>わくわく理科授業応援事業（教育庁義務教育課） ☆ 共働</p> <p>小学校の理科授業で観察・実験を補助する「理科支援員」の配置や専門的な内容を分かりやすく教える特別講師の派遣を20年度は50校から65校に拡充し、分かりやすい理科授業を広く展開します。</p>	19,000
<p>「ふくいサイエンス寺子屋」開催事業（教育庁義務教育課） ☆ 共働</p> <p>放課後や長期休業中等に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で、「ふくいサイエンス寺子屋」として科学実験等を行い、理科や算数・数学に対する興味、関心を高めます。</p> <p>事業内容 公民館や児童館などへの講師派遣（80回） 企業やNPO法人などが行う科学実験等に対する支援（20回）</p>	5,656
<p>スーパーサイエンスフォーラム開催事業（教育庁高校教育課） ☆</p> <p>高校生を対象に、世界の最先端科学技術に触れ学ぶ機会を設けることにより、科学技術、理科・数学に対する興味・関心を高め、知的探求心を育てます。</p> <p>事業内容 ノーベル賞を受賞した白川英樹筑波大学名誉教授の講演と実験の実施 開催日 20年8月</p>	3,590
<p>ふくい理数グランプリ（仮称）開催事業（教育庁高校教育課） ☆</p> <p>中学・高校生が理科や数学の応用力や実験力を競う「ふくい理数グランプリ（仮称）」を開催し、理数科目に対する応用力を育て、国際科学コンテスト等への参加機運を高めます。</p> <p>事業内容 理数グランプリ（仮称）の開催（数学・物理・化学・生物）</p>	500

<国語・英語教育の新しい展開>

「白川文字学」活用推進事業（教育庁生涯学習課・義務教育課） ☆ 3,291

白川静博士が確立された「白川文字学」を活用した本県独自の漢字学習を、4月から県内全小学校で一斉に開始します。また、子どもから大人まで楽しく学ぶ漢字教室を行い「白川文字学」を広く普及発展します。

外国語指導助手配置事業（教育庁高校教育課、義務教育課） 452,530

外国語指導助手（ALT）を配置し児童・生徒に生きた英語に接する機会を提供することにより、国際社会の中で活躍できる人材を育成します。20年度は、英語教員も含めた指導研修を充実し、英語の教え方をさらに改善します。

配置人数 87名（高校37名、中学校49名、県教育委員会1名）

小学校英語大好きモデル事業（教育庁義務教育課） ☆ 12,860

小学校5、6年生を対象に、外国人講師による英語活動を毎週実施することにより、英会話能力の育成を図ります。

事業内容 外国人講師による英語活動の実施（13校で週1時間程度）

◎高校生英語ディベート力育成事業（教育庁高校教育課） ☆ 538

英語教員や外国語指導助手（ALT）が英語ディベート指導を行うことにより、高校生に高度な英会話力を育成します。併せて、12月に開催される全国高校生英語ディベート大会に参加します。

<楽しい学校づくり>

◎楽しい学級生活支援事業（教育庁義務教育課） ☆ 8,786

保健室や相談室に登校する生徒に対して学習や生活に関する個別指導を行い、不登校の未然防止ができるよう、退職教員の知見を活用した学級復帰支援員を県独自に配置します。

配置校 8中学校

◎スクールカウンセラー配置事業（教育庁義務教育課） ☆ 82,227

児童・生徒の心の悩み相談を行うスクールカウンセラーを、県下全中学校に加え、20年度は新たに小学校にも配置します。

配置校 中学校（全校配置76校）

◎小学校（11校）

◎スクールソーシャルワーカー配置事業（教育庁義務教育課） ☆ 25,283

児童・生徒を取り巻く家庭などの生活環境の改善を行えるよう、社会福祉士などをスクールソーシャルワーカーとして市に配置し、福祉的な観点から課題の解決を図ります。

配置場所 9市

◎養護教諭サポート事業（教育庁スポーツ保健課） ☆ 1,600

経験豊かな退職養護教諭の知見を活用し、経験の浅い養護教諭への指導、助言を行うことにより、子どもたちが抱える健康や心の課題に対応します。

④親の子育て力向上推進事業（教育庁生涯学習課） 630

親の子育て力向上に関する情報提供や講師リストの作成・提供など「親学講座」の開催をPTA団体と連携して支援することに加え、新たに各市町に「家庭教育応援チーム」を設置し、家庭教育支援体制を整備します。

事業内容 「親学講座」の開催などPTA団体と連携した親学の推進
⑤県実行委員会が中心となり、各市町に民生委員、保健師等で構成する「家庭教育応援チーム」を設置、家庭訪問活動や相談活動等を実施
(文部科学省は県実行委員会へ直接委託)

<特別支援教育の充実>

⑥発達障害児支援推進事業（教育庁高校教育課） ☆ 5,580

通常の学級に在籍しながら個別の指導を必要とする児童・生徒（学習障害、注意欠陥・多動性障害等）に対して適切な支援が行えるよう、特別支援教育コーディネーターを養成するとともに、特別支援学校等による巡回相談を実施します。

<おいしい給食の実現と食育活動>

⑦食育ボランティア学校連携事業 ☆ ⑧共働 (※うち教育庁所管分 2,285)
4,730

(部局連携：教育庁スポーツ保健課、農林水産部販売開拓課)

食育ボランティアと栄養教諭等との協力により、地元食材を取り入れた通常より手間と時間をかけたおいしい学校給食を提供します。

実施数 共同調理場8施設

おいしいふくい为学校給食事業（教育庁スポーツ保健課） ☆ 2,600

地元食材を取り入れ大量調理に適したメニューの開発や、保護者や食材生産者等との給食試食会の開催などにより調理技術の向上を進めます。20年度からは、市町の給食改善への取組みを支援するアドバイザーを派遣し給食環境や調理手法の改善を図ります。

元いきいき福井をつくる食育推進事業 ☆ ⑨共働 (※うち教育庁所管分 0)
(部局連携：農林水産部販売開拓課、教育庁スポーツ保健課、健康福祉部健康増進課、安全環境部廃棄物対策課) 17,776

家庭、地域、学校が一体となり、食や農の体験を重視した食育の県民運動を推進します。20年度は昨年を引き続き、「第2回全国高校生食育王選手権大会」を市町の催事との共同開催により相乗効果を発揮する形で開催します。

事業内容 「魚がさばける福井人」を育成する県民運動
農業体験学習の推進
市町が実施する食育活動への支援 等

◇いつでも身近に福井の文化

子どもたちが自ら進んで福井の歴史、福井の先人や白川文字学などを学び楽しむ拠点の整備を進めます。県民がいつでもどこでも文化に親しみ、また、より多くの子どもたちが本物の文化芸術に触れ、鑑賞体験できるよう機会の拡充を図ります。

旧県立図書館活用事業（福井子ども歴史文化館整備）（教育庁生涯学習課） ☆ 電源 234,613

旧県立図書館を活用し、子どもたちが、福井の歴史上の人物と、白川文字学を中心とした郷土の歴史文化を学び楽しむ拠点として「福井子ども歴史文化館」を整備します。

事業期間	19年度～21年度
事業内容	展示内容の具体的な検討 展示基本設計・実施設計 建物改修工事（外壁、防災設備、屋上防水などの改修）
総事業費	約6億円

子どものための文化芸術促進事業（教育庁文化課） ☆ 共働 23,440

県内の子どもたちが少なくとも2年に1回は本物の芸術文化に触れることができるよう、県立音楽堂を訪れるなど芸術鑑賞・体験事業を充実します。

事業内容	県立音楽堂公演での小中高生向けの無料鑑賞シートの設置 県立音楽堂での児童、園児のコンサート体験 学校での小中学生を対象とした芸術鑑賞教室の開催
------	---

ふくい県民文化総合推進事業（教育庁文化課） 36,671

県民が広く文化・芸術に親しみ、楽しみ、学ぶことができるよう、日ごろの文化活動の成果を発表する機会を充実し、文化への関心を高めます。

県立美術館や博物館が所蔵する絵画等を公共施設等へ貸出し展示を行い、本物の芸術文化に触れる機会を提供します。

フレンドリーアート推進事業（教育庁文化課） ☆ 3,608

嶺南地域から県立美術館や県立音楽堂での展覧会等に合わせ無料バスを運行します。併せて、嶺南地域に美術品等を持ち込み移動企画展を開催します。

事業内容	嶺南地域での移動企画展（美術館3回、恐竜博物館1回）の開催 県立美術館・県立音楽堂への無料送迎バスの運行（年8回）
------	--

「ふくいふるさと祭り」開催事業（教育庁文化課） ☆ 共働 1,465

民俗芸能を中心に創作芸能を交えた「ふくいふるさと祭り」を、20年度は無形民俗文化財が多数存在する若狭町において開催し、福井の伝統文化の魅力を県民に伝えます。

ふくいの祭り・民俗芸能群の制度創設（教育庁文化課） ☆ ー

若狭地方を中心に、個々の祭りや民俗芸能をテーマ化、ストーリー化し、年間を通じた大きなまとまり（群）として捉え、その価値を顕在化できるよう「ふくいの祭り・民俗芸能群」の制度創設に向けた準備を開始します。

一乗谷朝倉氏遺跡整備・活用推進事業（教育庁文化課）

61,897

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査、復原整備を一乗谷朝倉氏遺跡新10か年整備・活用計画に基づき実施するとともに、本県の観光振興とイメージアップに活用します。

計画期間 17年度～26年度

全体事業費 約5億5千万円

◇「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

運動習慣を持たない子どもを含め、すべての子どもたちがスポーツを楽しむ環境を整備します。県民が気軽に参加しスポーツに親しむ総合型地域スポーツクラブの活性化を図り、生涯スポーツの振興と競技力向上のための対策を実施します。

◎スポーツ大好きっ子育成事業（教育庁スポーツ保健課） ☆

1,870

小学生が放課後にドッジボールやラジオ体操など平易な運動を行うことにより、子どもの頃から体を動かす習慣を身に付けられるよう支援します。

事業内容 週1回、放課後1時間程度の運動を、8校で実施

◎県民スポーツ祭開催事業（教育庁スポーツ保健課）

13,500

県民の誰もが気軽に参加できるスポーツ大会として、19年度に引き続き県民スポーツ祭を開催します。20年度は大会参加資格を緩和し参加者を増やすなど改善を行います。

◎総合型地域スポーツクラブ活性化事業（教育庁スポーツ保健課） ☆

1,750

身近な場所で、気軽にスポーツに親しめるよう、スポーツ教室やミニスポーツ大会の開催など、総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。併せて、ウォーキングや自転車など特別な施設や用具を必要としない気軽なエクササイズを実施します。

◇県立大学を中心とした大学連携リーグ

エイジフリー進学推進 ☆

（部局連携：総務部大学・私学振興課、産業労働部労働政策課、教育庁高校教育課）

就職後においても大学進学の希望が実現できるよう、産業界、高校、大学などの関係機関が連携して、働きながら学べる制度の拡充に向けた検討を開始します。

2 女性活躍社会

◇日本一の子育て応援システム

①「家族時間」を伸ばす県民運動の推進 ☆ ② (※うち教育庁所管分 0)
(部局連携：総合政策部政策推進課、安全環境部県民安全課、健康福祉部子ども家庭課、 30,468
産業労働部労働政策課、教育庁生涯学習課)

「家族の生活の質」を測るものさしとして、「家族時間」という新しい概念を取り入れることにより、学校、企業、地域が協力・連携してこれを伸ばす県民運動を展開します。

運動内容 学校へのアプローチ (ゼロ予算)

県内すべての公立小中高校における「放課後活動定休日」(毎月1回、「家庭の日」の翌日)の実施

親学講座、子育て講座を全小学校区で開催

家庭へのアプローチ

①「家庭の日」家族ふれあい支援事業(2,000千円)

すまいるFカード協賛店舗での家族向け優待の実施(ゼロ予算)

父親の子育て力向上推進事業(1,500千円)

勤労者ライフプラン資金貸付金(育児・介護休業生活資金

貸付枠7.5千万円)

企業へのアプローチ

子育て支援職場づくり推進事業(11,146千円)

企業の父親子育て奨励事業(1,271千円)

中小企業育成資金貸付金(企業の子育て奨励分 貸付枠8億円)

保証料全額補給 (14,551千円)

放課後子どもクラブ応援事業(教育庁義務教育課) ☆ 333,161

子どもたちが、放課後、充実した時間を過ごすことができるよう、放課後子どもクラブを企画運営します。

事業内容 放課後子どもクラブの企画運営、備品整備、推進体制の整備

実施場所 小学校、公民館、児童館等

※クラブの活動内容、名称等についてはそれぞれの地域で決定

対象児童 小学生等

開催日 月～土曜日

補助率 国1/3 県1/3 (市町1/3)

4 みんなの手によるあたたか福祉

◇つながりと自立の応援プロジェクト

(※うち教育庁所管分 2,200)
職業自立促進事業(部局連携：産業労働部労働政策課、教育庁高校教育課) ☆ 5,980

特別支援学校生徒の一般就労の促進と定着を図るため、企業ニーズ等を踏まえた実践的な研修と企業での職業訓練を行うとともに、就業後の技能向上を支援します。

事業内容 企業での就労移行訓練、技能向上講習会の開催

企業への障害者就労広報、企業ニーズ等を踏まえた実践的な現場実習

5 日本一の安全・安心 (治安回復から治安向上へ)

◇「福井治安向上プラン」の実行

子ども安心3万人作戦 ☆ 共働 (※うち教育庁所管分 0)
21,511
 (部局連携：安全環境部県民安全課、警察本部、教育庁スポーツ保健課)

小学生の見守り活動を引き続き実施するとともに、中学生の安全を確保するため、県下全域で学校・PTA・地域防犯団体などの活動促進体制を構築します。さらに中学校区から重点地区を選定のうえ、車輻による巡回パトロールや、生徒への防犯講習を強力に推進し、県下全域への拡大を図ります。

スクールサポーター（生徒指導支援員）派遣事業 ☆ (※うち教育庁所管分 0)
10,316
 (部局連携：警察本部、教育庁義務教育課、高校教育課、安全環境部県民安全課)

警察・学校・青少年健全育成団体・地域社会の連携のもと、中学生、高校生の非行防止や立直りに向けた生徒指導支援を行うため、スクールサポーター（警察官、家庭裁判所職員、教員のOB等）を中学校、高校の要請に応じて派遣します。

◇災害・危機への「最初動」対策

施設等の耐震化促進事業

福井県建築物耐震改修促進計画に基づき、地震対策を強化するため、民間木造住宅や学校等の施設の耐震診断経費等を支援することにより、耐震化を促進します。

公立小・中学校の耐震化（教育庁学校教育振興課） ☆ 40,500

補助率 耐震工事

財政力指数0.5未満の市町 県1/12 (国1/2 市町5/12)

財政力指数1.0未満の市町 県1/16 (国1/2 市町7/16)

県立学校の耐震化（教育庁学校教育振興課） ☆ 1,248,818

実施内容 耐震補強計画・実施設計策定（9棟）、耐震補強工事（7棟）


Ⅱ 元気な産業

6 地域を支え世界に広がる福井の産業

◇雇用の質の向上

	予 算 額 (単位：千円)
ものづくり人材育成事業（部局連携：産業労働部労働政策課、教育庁高校教育課） ☆	15,000
民間企業の技術者等が、職業系高校の生徒に対し、実務で役立つ技術や技能を学校や職場において教えることにより、高校卒業後、すぐに企業で活躍できる技術者を育成します。	
事業内容 旋盤、溶接の技術指導や生産現場での実習 高校生と親を対象に、企業経営者による郷土意識や職業意識を高めるシンポジウムの開催（ゼロ予算）	
新食・暮らしを支える専門的職業人育成事業 ☆	(※うち教育庁所管分 10,000) 20,000
(部局連携：教育庁高校教育課、農林水産部水産課)	
水産高校と地域の漁業者、水産加工業、流通等の民間企業が連携し、水産業現場見学・実習や実践的授業を行い、漁業・水産業の担い手を育てます。	

◇「エネルギー研究開発拠点化計画」のステージアップ

原子力・エネルギー教育推進事業（教育庁高校教育課） ☆ 	10,000
高校生への原子力・エネルギーに関する教育を推進するため、専門家による講習会の開催や専門的な教育を行える指導者の養成を行います。	

Ⅲ 元気な県土

8 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり

◇モビリティ・マネジメント（交通手段の最適利用）の推進

	予 算 額 (単位：千円)
フレンドリーバス運行事業（教育庁生涯学習課） ☆	16,521
福井駅と県立図書館を30分間隔で結ぶ無料のフレンドリーバスについて、20年2月から実施している新しいルートでの運行を継続して行い、より多くの利用者に対する利便性向上を図ります。	

IV 元気な県政

10 夢と誇りのふるさとづくり

◇ 「理想県」福井を全国に

予算額
(単位：千円)

(※うち教育庁所管分 0)

継体大王アニバーサリー活動推進事業 ☆

6,900

(部局連携：総合政策部政策推進課、教育庁文化課)

継体大王即位1500周年記念事業の成果を活かし、大王の業績や本県の歴史に県民の理解を深めるとともに、関係自治体や民間団体と連携して本県の魅力をアピールします。

事業内容 市町による継体大王ゆかりの地整備の支援 補助率1/2

大王が活躍した時代の古墳の調査

実行委員会が行う県民参加による桜の植樹 など

(※うち教育庁所管分 22,764)

恐竜渓谷(ダイノソーパーレー)構想推進事業 ☆ (部局連携：教育庁文化課、総合政策部政策推進課、産業労働部観光振興課、土木部道路建設課、道路保全課)

136,558

恐竜博物館や恐竜発掘現場を中心とした九頭竜川上・中流域一帯を恐竜渓谷(ダイノソーパーレー)と見立て、「恐竜」をモチーフとしたハードとソフトの整備を一体的に行います。

事業内容 恐竜モニュメントの整備(勝山市)

えちぜん鉄道勝山駅前広場の拡張整備

アクセス道路の交差点改良、「恐竜渓谷」案内標識設置

車内で恐竜や恐竜博物館についての解説が聞けるCDの配布

恐竜ブランド発信事業(教育庁文化課) ☆

31,875

海外での恐竜化石発掘調査を拡大し、20年度は、タイに加え中国においても共同研究を実施します。併せて、タイや中国の化石の標本を恐竜博物館で展示します。

また、首都圏における広報活動の展開やナイトミュージアムの開催など、全国や世界に向けて、恐竜王国福井の認知度を高めます。

◇ 「ふくいランドスケープ構想」

ふくいの文化財再生・活用推進事業(教育庁文化課) ☆ 電

66,081

県指定文化財(建造物)の修繕を促進し、福井の歴史景観を形成する文化財などを保存・活用します。

事業内容 県指定文化財(建造物)の修繕経費の補助

補助率 1/2 (補助限度額1億円)

補助対象 瑞源寺、劔神社、旧古河屋別邸

文化財の活用推進等に要する経費の補助

補助率 1/2 (補助限度額50万円)